

TAMA CINEMA 通信



TAMA CINEMA FORUM

TAMA映画フォーラム実行委員会 〒206-0025 多摩市永山1-5 ベルブ永山(永山公民館内)
代表:042-337-6661 直通:080-5450-7204 <http://www.tamaeiga.org/>

- ・多摩エリアでは初の上映!!
- ・映画館以外での上映はTAMAが全国初!!
- ・全国最後のスクリーン上映へ!!



特別上映会

情熱のピアノニズム

人生の喜びとユーモアに溢れた旋律。36歳で夭折した天才ジャズ・ピアニスト、ミシェル・ペトルチアーニを描くドキュメンタリー。



日時・会場

2013年4月13日(土)
ベルブホール
(多摩市立永山公民館)
(ベルブ永山 5F・京王永山駅・
小田急永山駅下車徒歩約2分)

スケジュール

10:30-12:13 第1回上映
13:00-14:43 第2回上映
15:30-17:13 第3回上映
18:00-19:13 第4回上映

*全席自由席・各回入替制です。
*開場は各回15分前です。
*スケジュールは変更になる場合があります。

チケット

前売: 大人 1,000円
当日: 大人 1,200円
こども: 600円
(4歳~12歳)

*支援会員、障がい者と付添いの方1名は当日600円です。

ミシェル・ペトルチアーニの数奇な人生は、全身の骨が折れた状態で生まれたときから始まる。ガラスのような骨を持つ病気のため、身長は成人しても1メートルだった。フランスの音楽一家に生まれた彼はレコードを貪り聴いて育った。

4歳のときにテレビで観たデューク・エリントンに憧れてピアニストになることを決意。8歳で初舞台を踏み、13歳でプロデビューを果たす。17歳でジャズの本場アメリカに渡り、多くの伝説的ミュージシャンらとセッションを重ねた。

1985年には欧州出身者として初めて名門ブルーノート・レコードと契約。ミシェル・ペトルチアーニの名は世界中に知れ渡った。

「長生きできないから急ぐんだ」。骨折しても演奏を続け、ライブは年200回を超えていた。幼少時から亡くなる直前までに撮り溜められた演奏風景や日常の映像が初披露となる本作は、ミシェル・ペトルチアーニの前向きで貪欲な人生観を提示し、生きる意志について私たちに問いかける。

★第64回カンヌ国際映画祭特別招待作品 ★第37回セザール賞ドキュメンタリー部門ノミネート
監督: マイケル・ラドフォード (『イル・ポスティエーノ』『ヴェニス商人』)
原題: Michel Petrucciani/Body&Soul 2011年 フランス=ドイツ=イタリア
提供: コムストック・グループ 配給: キノフィルムズ

『情熱のピアノニズム』上映会特設ページ <http://www.tamaeiga.org/special/pianism>

TAMA CINEMA FORUM 映画祭 Ustream 放送 「TAMA CINEMA CHANNEL」 開局！



初外部収録した「自家焙煎コーヒー豆専門店 tak beans」のご紹介 “聖蹟桜ヶ丘にミニシアター復活!?”

TAMA CINEMA FORUM の Ustream 放送は、御存知でしょうか？
「TAMA CINEMA CHANNEL」は、TAMA CINEMA FORUM に関する情報をお届けするインターネット配信番組です。インターネット環境があれば、無料でご覧いただけます。

昨年の 10 月に TAMA 映画賞の各受賞者を Ustream で発表しようということで始まり先日 3 月 20 日で 7 回目の放送をしました。

今回は、初外部収録の協力、そして特別上映会『情熱のピアノズム』でタイアップメニューもご用意して頂きました自家焙煎コーヒー豆専門店「tak beans」をご紹介します。

※ 3/20 放送内容：ゲストに多摩市在住の映画人“特殊メイクアーティスト”の織田尚さんをお迎えして、放送時間内に実行委員がゾンビに大変身していく様子が生中継されました。他、詳しくはアーカイブをご覧ください。
(<http://www.ustream.tv/channel/tama-cinema-channel>)



Ustream 配信の様子

聖蹟桜ヶ丘駅から徒歩 5 分の「tak beans」は、昨年 9 月にオープンしました。このお店、単なる自家焙煎コーヒー豆店では、ありません。

「tak beans」HP のコンセプト、“様々な情報を発信する場所”の通り、実はこの店の 2 階スペースを、交流の場として様々な企画を現在計画中的なのですが、その中の一つとして何と、映画館（ミニシアター）という案もあるのです。以前、聖蹟桜ヶ丘の駅ビルに映画館があったのを皆さん覚えているでしょうか？それがいつの間にか閉館。この街で映画が観られなくなったことを寂しく思っていました。

このお話を聞き、ぜひ映画祭で協力し合えることはないか？と持ちかけたところ、今回の特別上映会タイアップメニューやチケット委託販売、そして Ustream 放送など企画が立ち上がりました。映画ファンをもう一度この“聖蹟桜ヶ丘”へ。

ぜひ、皆様「tak beans」で美味しいコーヒーを飲みながら、これから見てみたい映画のラインナップなどの談義をしてみたいでしょうか？今後も TAMA CINEMA FORUM は、tak beans を追いかけていきたいと思えます。（清水）

（この続きは、ハイパーローカルメディア多摩メディア「たまプレ」にて読めます。「たまプレ」<http://www.tamapre.jp/>）

特別上映会『情熱のピアノズム』関連

① チケット取り扱い、絶賛前売券発売中

② 期間限定メニュー

「情熱のピアノズム」多摩市上映記念として、ミシェル・ペトルチアーニがフランス出身というところからカフェオレにあう深煎り特別ブレンド「capriceblend」販売中。

期間 3/12 (火) ~ 4/20 (土)

※「caprice」はフランス語で「きまぐれ」という意味。ミシェルの性格からネーミング。



tak beans

営業時間：8:00 - 19:00

定休日：月曜日

※ただし月曜日が祝祭日の場合は営業いたします。

tel・fax：042-313-7683

住所：〒206-0002 東京都多摩市一ノ宮 3-7-16

アクセス：京王線 聖蹟桜ヶ丘駅徒歩約 5 分 すぐ近くに提携のコインパーキングがあります 1,000 円以上お買い上げの方は駐車料 30 分サービスいたします。



『二郎は鮭の夢を見る』 (デヴィッド・ゲルフ監督)

御年 87 歳、当代一の鮭職人、すきやばし二郎の小野二郎さんのドキュメンタリー映画。

食べる人に合わせて微妙にネタの大きさを変えたり、お客さんの様子を見て絶妙のタイミングで寿司を出す。常にお客さんのことを考えている。このドキュメンタリーはカウンターに立ち続け、生涯一鮭職人を貫く二郎さんの職人としての魅力を余すことなく、また飾ること

もなく紹介している。

「シンプルを極めるとピュアになる」それは鮭一貫のために毎日市場に行き、その日最高のネタを仕入れ、職人の技で握り、お客も一番美味しい瞬間を食べる。劇中で言われるこの言葉は、ただただ最高に美味しい物を求める姿を見事に表現している。

鮭だけにとどまらず、日本文化の洗練された奥ゆかしさを外国人監督が見事にとらえたドキュメンタリー映画でした。(田村)

『ドライブ』 (ニコラス・ウィンディング・レフン監督)

主人公はドライバーあるいはキッドとしか呼ばれず名前はわからない。映画の始まりは打ち込みの曲にタイトルが紫の文字で出てくるという今となってはダサイ 80 年代テイストで、昼はハリウッドのスタントマンをやりながら自動車修理工場働き、夜は天才的なドライブテクニックで窃盗犯の逃がし屋をやっているという陳腐なストーリー。

どこから来たか分からない男が人妻と恋に落ち、最後去っていくというのは、小林旭のころの日活映画に似ている、というか、プロットはシーンそのまんまです。

日活映画好きの作家矢作俊彦はこの作品を Twitter 上で酷評し、それを受けて映画監督の青山真治も車と銃器に対する愛情が無いといったことをツイートしていた記憶があります(主人公役のライアン・ゴズリングを評して、ルックスが脇役の警官その 1 ぐらいの兄ちゃん呼ばわりもしていたような)。監督のニコラス・ウィンディング・レフンはデンマーク出身で、自動車免許持ってないらしいです。あの車社会の LA で、撮影中にどうやって生活してたんだか。

なので、ハリウッドっぽくない、相当へんてこりんな映画になってしまいました。警察とかくれんぼしているような逃走劇に始まって、ブルーベルベットやアウトレージから影響を受けた(?)と思われるシーンがあったり。まともなカーチェイスは 1 回しかない。しかも、マスタングとクライスラー 300C のカーチェイスってどうよ(300C が HEMI エンジンとすると、ここで矢作俊彦の大傑作“マイク・ハマーへ伝言”とつながる!!)。

そんな映画を仕事帰りに 5 回も見に行くとは自分でもどうかしていると思いますが、傑作です、この映画。いろいろな映画の記憶を使って監督が好き勝手に撮ったのだと勝手に想像していますが、微妙なセンスの良さと悪さが相まって、奇妙なテイストがはまってしまい、芋焼酎のように癖になってしまいました。

製作会社は試写を見て、頭抱えたに違いないですけど。

(石井)

『屋根裏部屋のマリアたち』 (フィリップ・ル・ゲ監督)

本作品は証券会社を経営するフランス人実業家のジャン＝ルイとその妻、そして彼ら夫妻に仕えるメイドたちとの間のやりとりをコミカルに描いた作品である。仕事はそれなりに上手くいってはいたが、夫婦関係はあまり良好とは言えず、イマイチ日々の生活が充実していない状況のジャン＝ルイ。一方、狭苦しい屋根裏部屋に住み、メイドとして懸命に彼らに仕えるスペイン人女性たち。彼女たちは劣悪な環境下でも決して不満を漏らすことなく、常に陽気に振舞う。また、母国で

の辛い過去を背負ってはいたが、それも普段顔に出すことはない。そんな彼女たちと接しているうちにジャン＝ルイは少しずつ彼女たちに興味を抱くようになり、いつしか自身も屋根裏部屋に住み始めてしまう。

最近働き始めたメイドで、マリアというひときわ美しい女性がおり、ジャン＝ルイは彼女に心惹かれてしまう。マリアや他のスペイン人メイドたちと付き合ううちに、少しずつ日常に変化が訪れ、日々の生活が充実したものとなる。

経済的・社会的に恵まれた立場にある人であっても様々な悩み等があり、幸せな日々を送っていない人もいる。逆に貧しく、悲惨な状況下にあっても前向きに日々を謳歌する人もいる。人生なるようにしかならない。どのような状況にあっても、それを受け入れ、自分らしく歩んでいくことが重要だ。スペイン人メイドたちから学ぶべき点は多々あるだろう。

ストーリー展開としては若干都合よすぎる面もあるが、作品全体としては秀逸。

(阿部)

『腑抜けでも悲しみの愛を
みせろ』 (吉田大八監督)

強烈なタイトルに惹かれてこの映画を観ました。この映画が吉田大八監督を好きになったきっかけとなりました。

この映画を一言で言うとブラックコメディだと思います。人間の黒い部分を不思議に面白さを交えて描いており、暗いけれど明るい不思議な感覚になる映画でした。

物語の出だしから人が死んでいるのに、それを重く意味付けるわけではなく面白くポップに描いていて、観始めたときからもうすでにこの映画のペースに巻き込まれていくのを感じました。本当に厭らしい映画だと思いました。

この物語は4人の個性的なキャラクターにより進行します。女優志望の勘違い女の澄伽とその妹の清深、二人の兄の宍道、宍道の嫁の待子の4人です。田舎の実家には両親、清深、宍道、待子が住んでいました。澄伽は女優を目指し、東京に出ていました。けれど両親が事故で死んでしまい、澄伽が実家に戻ってきます。澄伽は自分のことをホラー漫画として描く妹を恨み、また妹も勘違い女で意地悪な姉を嫌っていました。この二人の騒動を追っていく映画です。

人間の黒い部分を本当に良い具合に笑えるように描いていて最初から最後まで始終ドキドキしていました。見てはいけないものを見ているようなドキドキを感じました。

この映画の好きなのは個性的なキャラクター、またそれになりきる俳優さん、映画の舞台設定、映像における色の使い方、人間の感情をコミカルに描いているというところです。

印象的なシーンはラストのほうの映像に入れられる漫画のようなシーンと姉が田んぼのなか妹に怒鳴るシーンです。澄伽が言い放つこれからまだまだ何かありそうな雰囲気の台詞に少し戸惑いを感じつつ、先が気になるなあ、まあいいかと諦めもあるような思いでこの映画を見終えました。吉田大八監督が好きになりました。(鈴木)

『マリーゴールドホテル
で会いましょう』
(ジョン・マッデン監督)

まったく注目していなかった作品ですが、あまりの評判の良さに鑑賞。ストーリーはそれぞれに人生の節目を迎えた年配のイギリス人の男女7人が、さてインドのリッチなホテルでのんびりしましょうかと言うお話。

どうやら主演はジュディ・デンチだったらしいけど何人かにスポットを向けているため、いろいろな見方ができます。まだ一度しか見てませんが、きっと何度見ても楽しめそうと言う点でまずはオススメポイント10点満点中、2点獲得!

そして泊まりに行ったリッチなはずのホテルがリッチどころか扉もなかったりなボロホテルで…と言うところは薄々先が読めてしましますがwそれはさておき、映画のタイトルにまでなっているマリーゴールドホテルがこんなんでいいのか?と言うところで負け犬支配人が元気に吠えながら現れます。ワンワン。どこかで見覚えのあるこの支配人こそ、私の大好きな『スラムドッグ\$ミリオネア』で負け犬主人公を演じたデヴ・パデル!と言う時点でオススメポイントのトータルはすでに5点です。また負け犬…多分、彼は負け犬顔なのかもしれません。

そんな最初は子犬の様な支配人も宿泊客に支えられながら立派なシベリアハスキーに…いや、ラブラドル?とにかく大きく成長していくところも見所。

そしてスラムドッグミリオネア同様、駄目なやつなのにちゃっかり可愛い彼女がいることにもちょっと疑問を抱きますが、その彼女が美しいのでそこでまたオススメポイントが大幅に上がります。一気にメーター振り切れました。そのくらいインド人の女性って本当に美しいです。宿泊客の老人たちもそれぞれに個性が強いのですが、どこかしら共感できる部分もあってとても見やすいです。

個人的にはインドに遊びに行ったときの記憶も蘇ってあったかい気持ちで映画館を後にしました。

何かいいことをしたような、家の近所に素敵なお店を見つけたような、そんな後味のいい映画です。(中川)

『中学生円山』
(宮藤官九郎監督)

『少年メリケンサック』以来となる宮藤官九郎監督作品。主演はSMAPの草薙剛であるが、実質的な主演は中学生円山を演じた平岡拓真であろう。

中学2年生の円山はとある目的のため体を柔らかくする必要にかられ、毎日柔軟運動に励んでいる。そんなある日、団地の上の階に謎のシングルファザー下井(草薙剛)が越して来る。下井のとある一言をきっかけに、円山はどんどん妄想を広げて行くが……。

映画は一言で言ってしまうと円山の「中二の妄想」をひたすら描いた作品である。下ネタ満載で下品な部分も多いが、最後まで楽しく観ることができた。ミュージシャンの遠藤賢司や『息もできない』のヤン・イクチュンも出演。今年の5月公開予定。(吉野)

『ジャンゴ 繋がれざる者』
(クエンティン・タランティーノ監督)

主人公ジャンゴは寡黙だ。南北戦争当時のアメリカで奴隷という立場にいたのだ。

そのかわりの3人、ジャンゴを奴隷の立場から解放しジャンゴの妻の救出へと導く賞金稼ぎドクター・キング・シュルツと、ジャンゴの妻を含む多くの奴隷を抱える農場主キャンディ、キャンディの黒人執事のスティーブン、この3人のやりとりがとても小気味いい。

ドクター・キング・シュルツを演じたクリストフ・ヴァルツはアカデミー賞助演男優賞受賞という形で評価されている。キャンディを演じたレオナルド・ディカプリオの恫喝シーンの迫力は凄かった。何でも恫喝シーンではグラスを割った際に実際に流血もしたらしい。

最後に、スティーブンを演じたサミュエル・L・ジャクソン。時に主人キャンディにも意見し、自身も黒人ながら他の黒人たちよりも優位に立とうとするいやらしさと狡猾さはとても楽しめた。本当にいやなヤツで素晴らしい悪役ぶりだった。この3人を見ることができて、『ジャンゴ』を見てよかったと思えた。もちろんガン・ファイトも満載で楽しめる。

筆者は『ジャンゴ』を見た後、幸運なことにまだ劇場公開前(3/29当時)の『リンカーン』を見る機会を得た。『リンカーン』は奴隷解放宣言を行い、アメリカ合衆国憲法修正第13条制定で奴隷所有禁止を成し遂げた政治家リンカーンを描いた映画だ。元奴隷ジャンゴは妻奪還という目的のために己の腕っぶりだけで奴隷制に立ち向かってみせた。大統領リンカーンは政治の世界から奴隷制に立ち向かってみせた。当時の体制へ抗う、地位も手法も対極に位置する2人を描いた『ジャンゴ』と『リンカーン』。この2本の映画はお互いの面白さがより際立つ組み合わせと言えるのではないだろうか。(遠藤)

TAMA CINEMA
FORUM
第22回映画祭

第13回 TAMA NEW WAVE コンペティション結果

第22回映画祭 第13回TAMA NEW WAVEコンペティション (2012年11月18日(日)ヴィータホール)の結果は以下のようになりました。受賞者の皆さんのご活躍を期待すると共に、TAMA CINEMA FORUMとしても応援していきたいと思えます。

- グランプリ 『かしこい狗は、吠えずに笑う』 監督：渡部亮平
- 特別賞 『魅力の人間』 監督：二ノ宮隆太郎
- ベスト男優賞 那波隆史 (『月の下まで』)
- ベスト女優賞 mimpi*β (『かしこい狗は、吠えずに笑う』)
- ゲストコメンテーター男優賞 アベラヒデノブ (『大童貞の大冒険』)
- ゲストコメンテーター女優賞 北村美岬 (『ひねくれてもポップ』)



グランプリ受賞作品
『かしこい狗は、
吠えずに笑う』の
渡部亮平監督



お知らせ

シベ超ニュース

— シベ超は今も皆の心の中を走っている —

TAMA CINEMA FORUM と何かと縁が深いシベ超シリーズ。イベントはいつも空席以外満席 (!?) でした。そのシベ超に何と新作が作られるらしいです。その名も『シベリア超特急 えびそーど!』。監督はあの世界の TK 氏やシベ超ファンの KM 氏の名前もあがっており、出演者も歌舞伎界を始め、大人数女子グループからもと、かなり豪華らしいです。詳細は <http://www.shibecho.com/> で。お楽しみに!

第23回映画祭TAMA CINEMA FORUM

今年の映画祭は 11 月 23 日 (土・祝) から 12 月 1 日 (日) まで開催予定です。

現在は映画祭でどんな作品を上映しようかと企画案を練っている段階です。今年の映画祭ではどんな映画が上映されて、どんなゲストが来場するのか…。

そして第 5 回目を迎える日本で一番早い (!?) TAMA 映画賞はどんな作品・受賞者に贈られるのか。皆さん、どうぞお楽しみに!

また、第 14 回を迎える TAMA NEW WAVE も作品募集中です。こちらもお期待下さい。



第 4 回 TAMA 映画賞受賞式より

次回特別上映会は6/8(土)になります。
(会場はベルブホール)
作品は現在選定中です。お楽しみに!

支援会員制度のお願い

「実行委員やたまシネマ隊として参加するのは難しいけどTAMA映画フォーラムを応援したい」そんな方はぜひ「支援会員」としての応援をお願い致します。

[支援金寄付 個人会員]

一口1000円 ご協力いただいた方は、映画祭パンフレットの贈呈などの特典もございます。

郵便振替番号 00160-5-541123 加入者名
TAMA 映画フォーラム実行委員会

* ご不明な点はお問い合わせ下さい

第23回映画祭新実行委員を募集します

映画好きの方、イベント好きの方、ぜひ映画祭実行委員として映画祭の運営に参加してみませんか。

4月21日(日)、5月19日(日)に募集説明会を実施いたします。各回 15 時～ (受付は 14:30 ～)

- ◎ 会場 多摩市立永山公民館・視聴覚室 (ベルブ永山 3 階)
- ◎ 内容 映画祭紹介・ビデオ等上映、映画祭が開催されるまで、実行委員の紹介、質疑応答 など
お申込み締切 [4月21日開催: 4月19日(金)] [5月19日開催: 5月17日(金)]

説明会申込方法など詳細はホームページをご覧ください。

たまシネマ隊を募集します

実行委員としての活動は難しいけれど、映画祭の期間のみならお手伝いしたいという方はたまシネマとして参加して下さい。

たまシネマ隊の募集説明会は9月頃から行います。詳細は後日ホームページの方で発表いたします。